

これからの治水対策

- 川の中と川の外^の治水対策を連動させる -

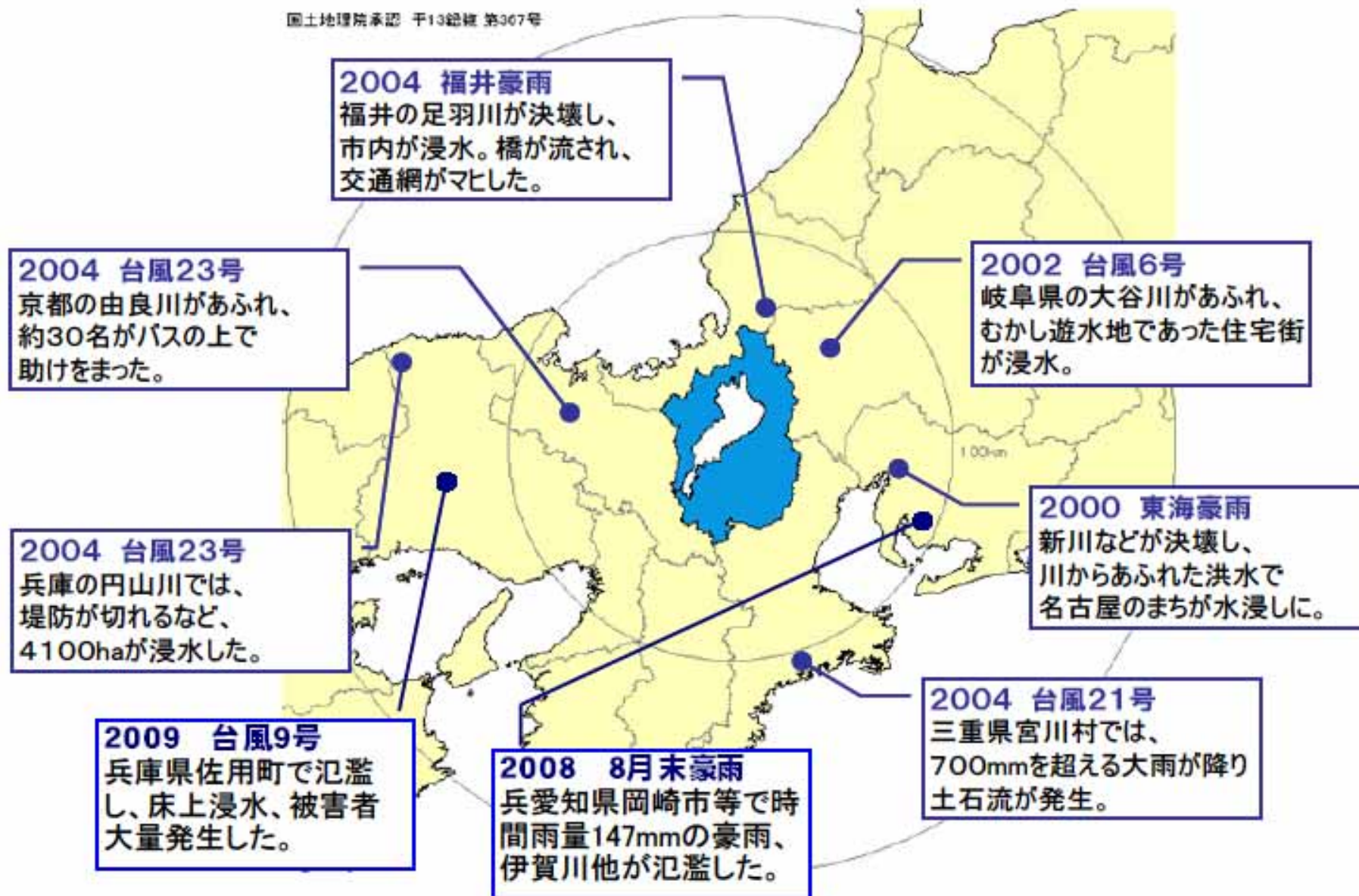
流域治水の徹底

平成21年9月27日

滋賀県流域治水政策室長 西蔦照毅

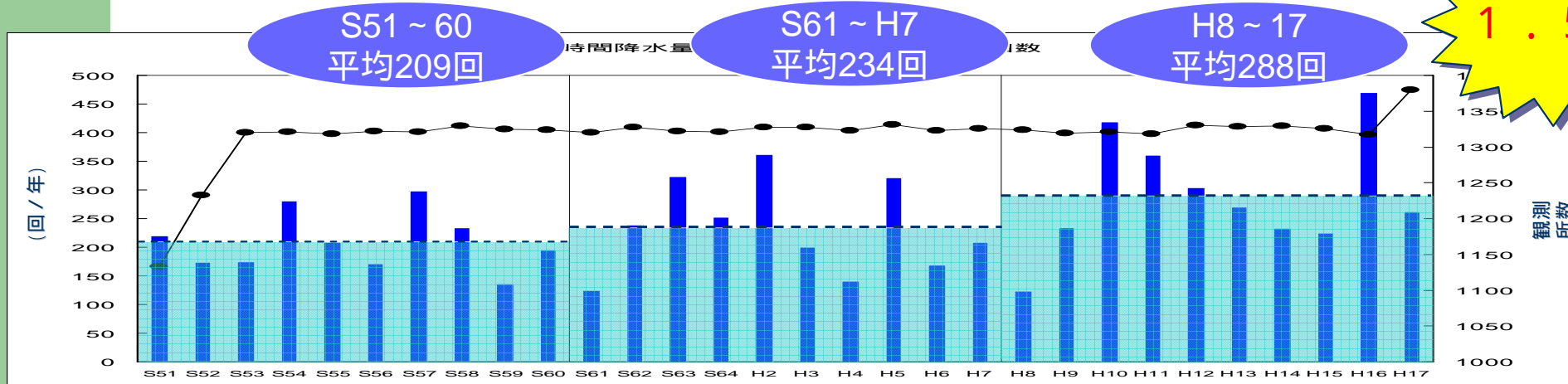
滋賀県の周辺で発生した近年の水害

国土地理院承認 平13総経 第367号

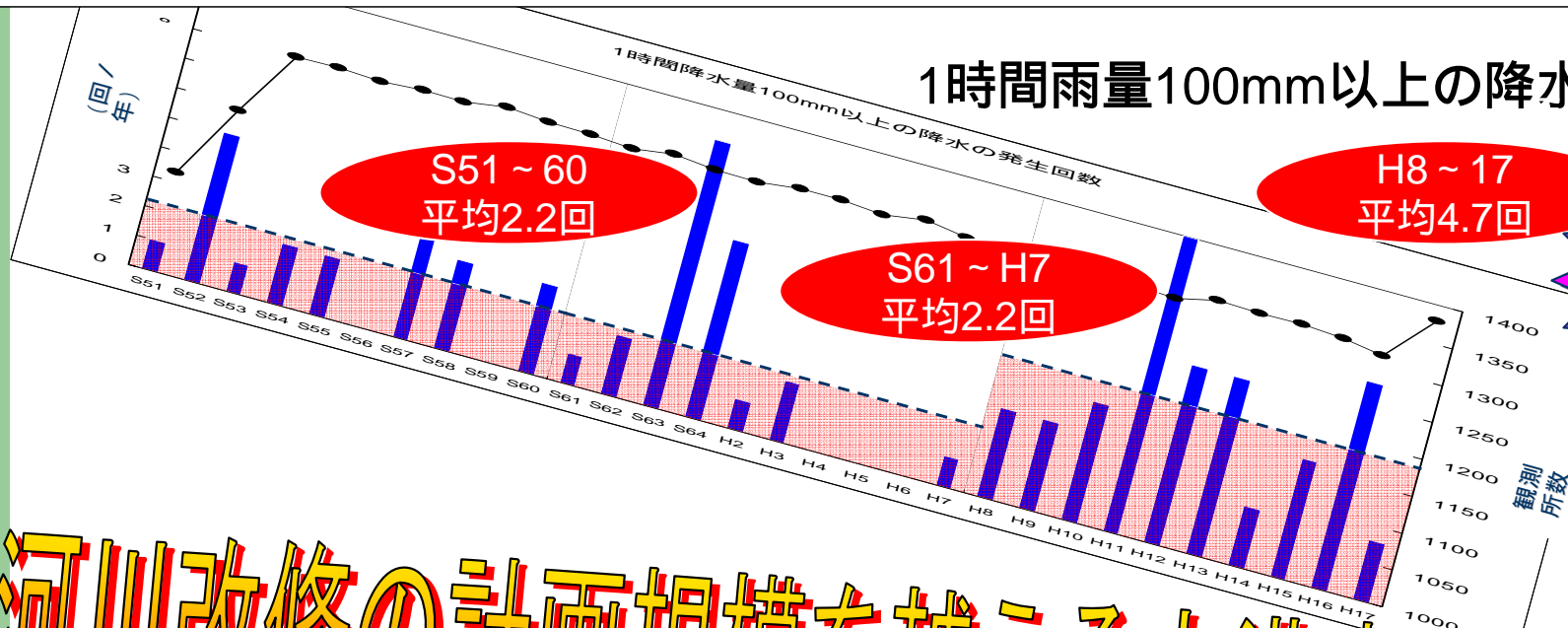


全国での集中豪雨の発生回数

1時間雨量50mm以上の降水の発生回数



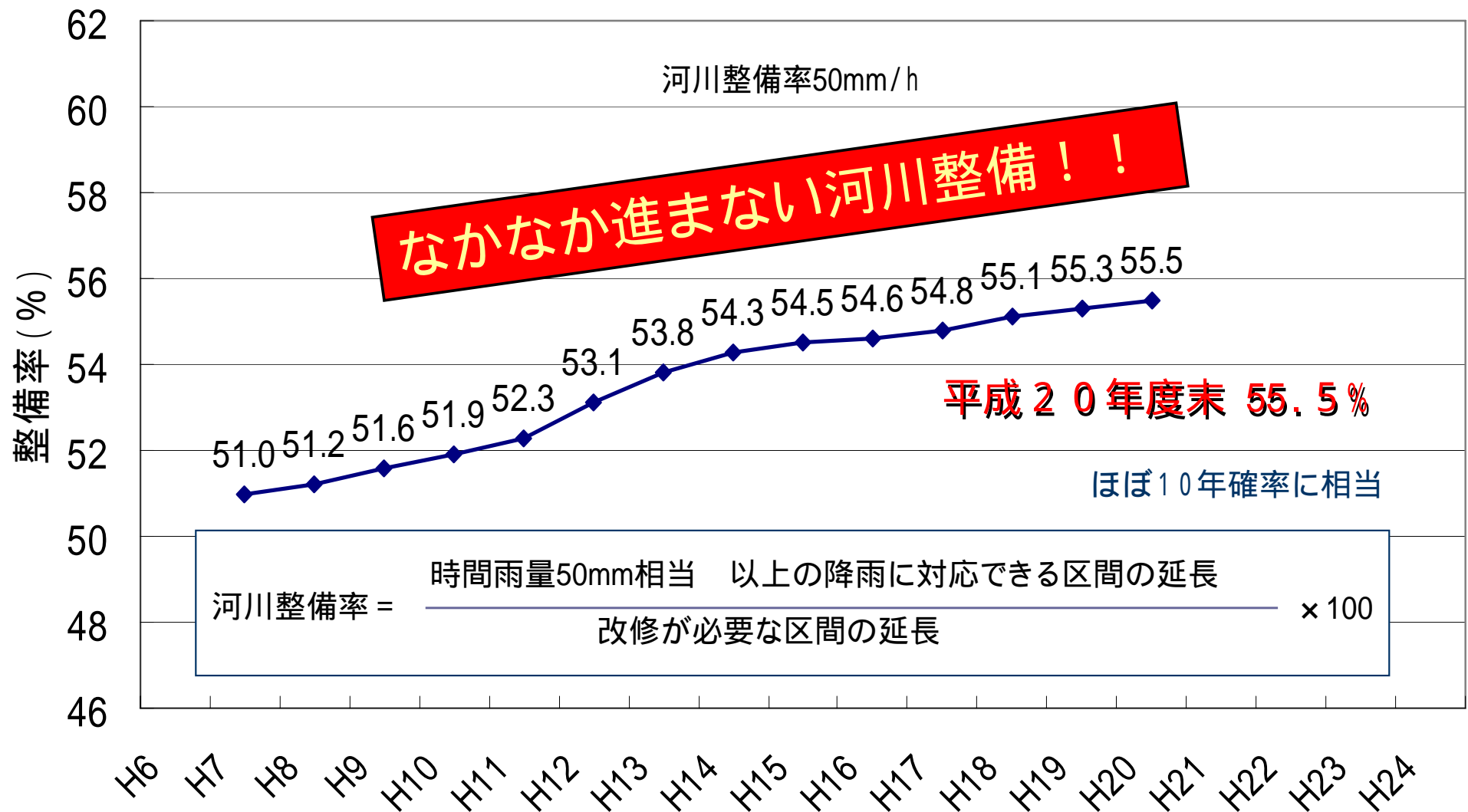
1時間雨量100mm以上の降水の発生回数



河川改修の計画規模を越える大洪水の頻発!

滋賀県の河川整備率の推移

一級河川で10年確率の治水安全度を確保するには今後60年以上を必要
(残事業費6000億円/年間予算95億円(H9~H18の平均値)/年)



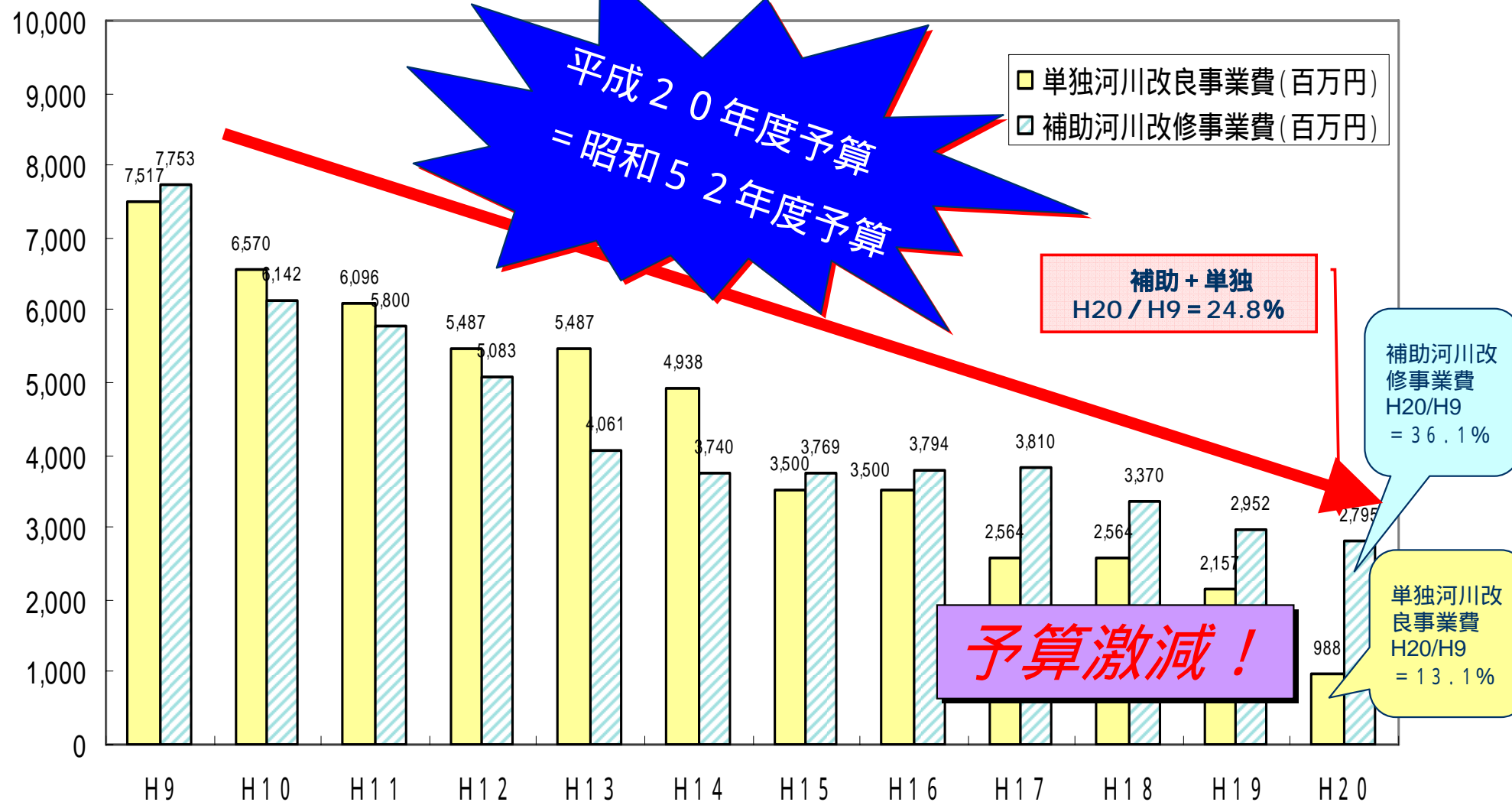
滋賀県の河川事業予算の変遷

補助・単独河川改修事業費推移 (平成9年から平成20年まで)

注:

単独河川改修事業とは、滋賀県が全額費用を負担する事業です。

補助河川改修事業とは、国から一定率の補助金を受ける事業です。



これからの治水対策

流域治水の推進

これまでの対策

一定規模の洪水を河道内で安全に流下させる(氾濫する頻度を減らす)



近年顕在化している課題

異常気象(集中豪雨、超過洪水の頻発化)
河川整備の限界(計画を越えた洪水、財政逼迫)
地域コミュニティ脆弱化(水防組織、少子高齢化)
水害意識低下(無関心、行政依存)

これからの対策

氾濫しても

人々の命を守る

最優先

床上浸水のような壊滅的な被害を減らす

これまでの治水対策 + 自助・共助・公助(組み合わせ)

ハード対策とソフト対策を連携した減災対策を進める **流域治水**

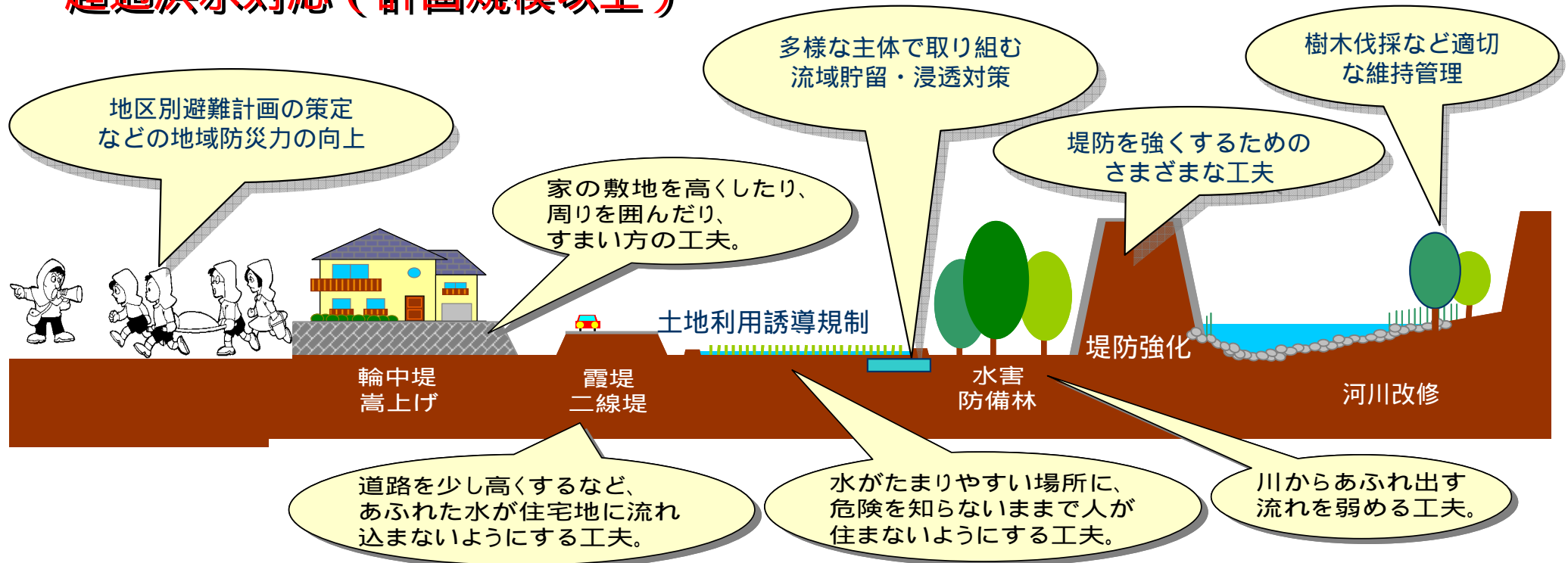
流域治水のイメージ

はん濫しても
人命を守り、被害を減らす施策
～川の外の対策～



はん濫を出来るだけ
起こさせない施策
～川の中の対策～

超過洪水対応（計画規模以上）



川の中の対策

〔ハード対策主体〕

河川改修

多自然

河川の選択と集中投資

優先順位をつけて河川整備を行う！

河川の選択 (Aランク、Tランク)

戦後最大または10年確率規模

- (1) 国の補助事業を実施している河川の推進 (Aランク)
- (2) 客観的に危険度の高い河川を優先的に実施 (Aランク)
- (3) 決壊の危険箇所を堤防補強 (Tランク)

1級河川 35本 / 506本

効率的な維持管理

- (1) 崩れたり壊れた護岸等、施設の補修
- (2) 住民と行政の協働による河川内の樹木伐採など

川の外の対策



連携と自助、共助

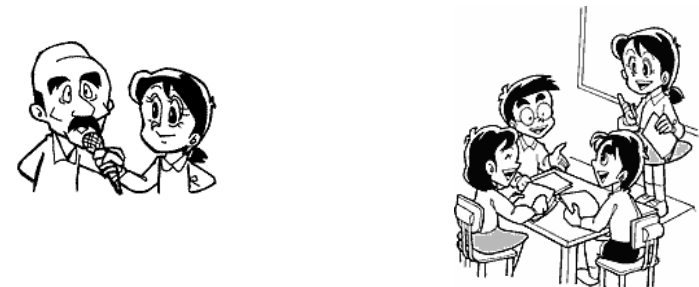
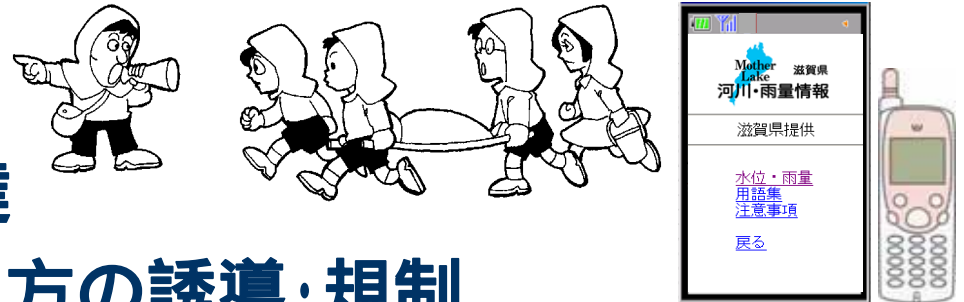
〔ハード対策〕

霞堤、二線堤、輪中堤、遊水池、嵩上げ、水害防備林など

- 河川、道路、都市計画、建築、開発など、県・市町・地域等との連携 -

〔ソフト対策〕

- ・水防・避難訓練、研修など
- ・水位・雨量情報等の迅速な伝達
- ・安全な土地利用、安全な住まい方の誘導・規制
- ・過去の水害体験、記憶等の伝承
- ・洪水ハザードマップ、出前講座など



- 自助、共助、公助 -

ソフト対策

県の具体的な取り組み

1. 流域治水基本方針の策定

流域治水検討委員会

- ・住民会議(公募) …… H20
- ・行政部会(6市3町) …… 継続
- ・学識者部会(6委員) …… 継続



2. 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会

湖南、湖北、東近江の3地域(追加) …… 継続

3. 水害に強い地域づくり計画の策定 …… 継続

4. 啓発活動 …… 継続

ハザードマップ、ホームページ、県広報誌、シンポジウム
課外授業、出前講座、水害図上訓練、学会発表など

水害から命を守る地域づくり

水害は必ず起こるという覚悟をもって
その 安全な避難ができる地域づくり
その 防災組織が元気な地域づくり
その 先人の知恵と新しい情報を共有できる地域づくり
を目指します。

知恵を広める
(皆で伝え合う
わかりやすい情報)

人をつくる
(誰もが役割を果たす)

組織をつくる
(地域は地域で守る)

仲間をつくる
(社会と連携する)

公助に期待すること

河川管理・氾濫原管理 危機管理 安全な地域づくり支援